第151回　地区内中小企業景気動向調査結果

（令和　8年 7 ～ 9月期実績・令和　8年 10 ～ 12月期見通し）

1.　**調　査　時　点**　　令和 8年 9月 1日 ～ 9月 7日

2.　**調査対象企業数**　　156社中回答 156社　　回答率 100.0%

区　　分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率（%）
製　造　業	従業員　300人以上	1	1	100.0
〃	従業員　300人以下	31	31	100.0
建　設　業	従業員　300人以下	2	2	100.0
〃	従業員　50人以下	36	36	100.0
卸　売　業	従業員　50人以下	9	9	100.0
小　売　業	従業員　50人以下	48	48	100.0
サービス業	従業員　300人以下	1	1	100.0
〃	従業員　50人以下	28	28	100.0
合　　計		156	156	100.0

3.　**調　査　方　法**

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4.　**分　析　方　法**

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・ＤＩ値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5.　**お問い合わせ先**

日高信用金庫　地域支援部　地域支援課（℡.0146－22－4113、内線 201）
〒057-0013　浦河郡浦河町大通２丁目 31番地 2

全業種総合　156企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概　　況

今期(令和8年7～9月期)の業況判断D.I.は△13.5と、前期(△12.8、令和8年4～6月期)比0.7ポイント下降した。前年(△8.8)比では4.7ポイント下降した。前期(令和8年4～6月期)調査時点での今期(令和8年7～9月期)見通し(△16.7)を3.2ポイント上回る水準となった。業種別の業況判断D.I.は、製造業△21.9(前期△18.8)、建設業△2.6(同△2.6)、卸売業0.0(同△22.2)、小売業△27.1(同△14.6)、サービス業0.0(同△13.8)となった。

売上額判断D.I.は△6.4と、前期(△5.8)比0.6ポイント下降、収益判断D.I.は△14.7で、前期(△14.7)と同水準となった。

来期(令和8年10～12月期)の予想業況判断D.I.は△15.4と、今期実績比1.9ポイントの下降見通しとなった。業種別にみると、製造業△18.8(今期△21.9)、建設業△13.2(同△2.6)、卸売業0.0(同0.0)、小売業△33.3(同△27.1)、サービス業10.3(同0.0)と来期を見通している。

【業種別天気図】

時期 ＼ 業種	地区内 2026年1月～3月	地区内 2026 4月～6月	地区内 2026年7月～9月	地区内 2026年10月～12月 見通し	北海道 当期	全国 当期
総合						
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
サービス業						

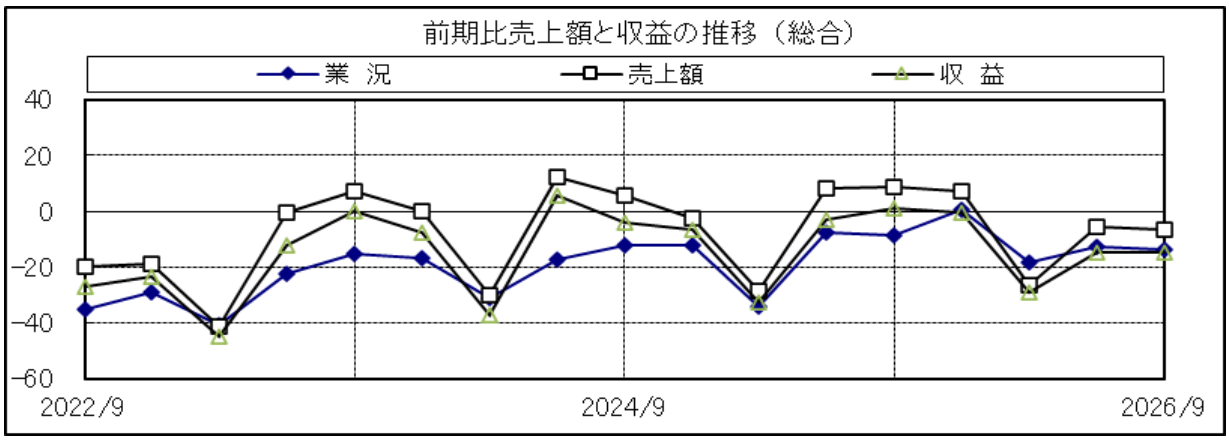
好調 ←  → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□　景　　況

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
業　況	-18.2	-12.8	-13.5	-15.4
売上額	-26.4	-5.8	-6.4	2.6
収　益	-28.9	-14.7	-14.7	-7.1

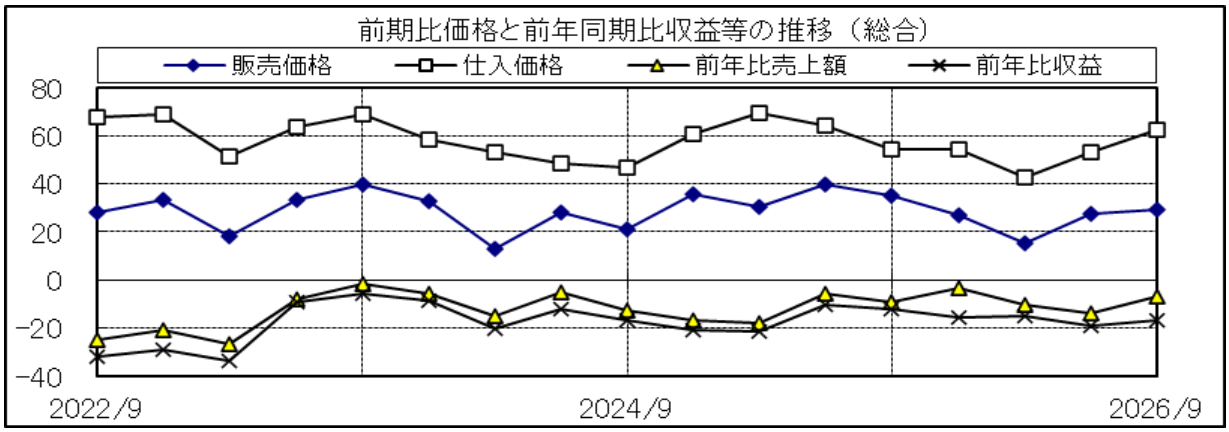
全業種総合の今期の業況判断 D.I.は△13.5 で、前期比0.7ポイントの下降、前年(△8.8)比では4.7ポイント下降した。地区別の D.I.は、高い順に、三石が最も高く、次にえりも、広尾、様似、静内と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D.I.は△6.4 で、前期比 0.6 ポイント下降。収益判断 D.I.は△14.7 で、前期と同水準となった。



□　価格面、前年同期に比べた動き

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
販売価格	15.1	27.6	29.5	28.8
仕入価格	42.8	53.2	62.8	49.4

販売価格判断D.I.は29.5で、前期比1.9ポイント上昇、前年(35.0)比で5.5ポイント下降した。仕入価格判断D.I.は62.8で、前期比9.6ポイント上昇、前年(54.4)比で 8.4 ポイント上昇した。業種別の前期比を見ると、販売価格は製造業、卸売業、サービス業が上昇し、他の業種は下降した。仕入価格は、建設業が下降し、他の業種は上昇した。



□　雇用面の動き

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
残業時間	-11.9	-5.8	-3.8	-3.8
人手状況	-34.0	-31.4	-31.4	-33.3

残業時間判断D.I.は△3.8と、前期比2.0ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D.I.は△31.4と、前期と同水準となり、人手不足感に変動はなかった。

□　設備投資の動き

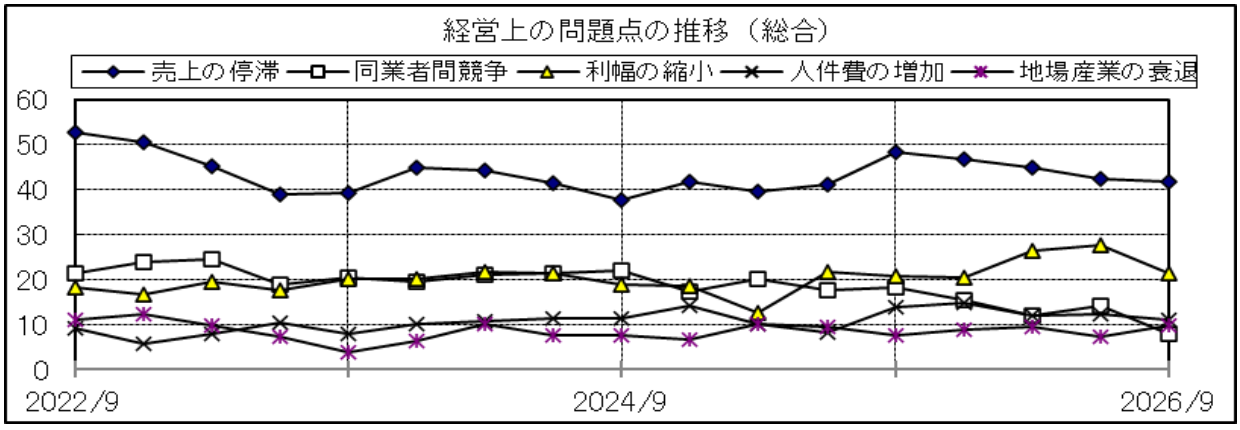
設備投資の充足感を示すD.I.は△12.8で、前期(△14.7)比1.9ポイント上昇した。

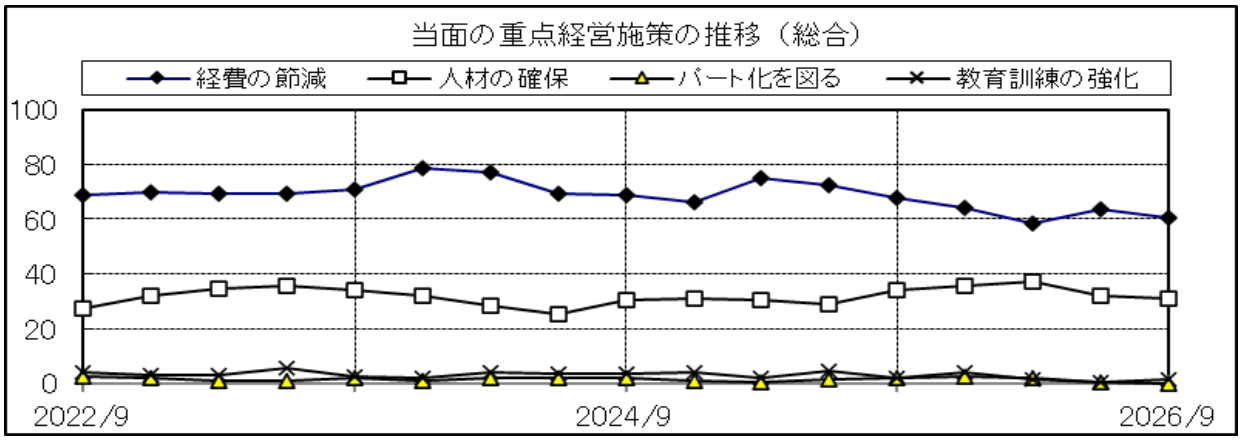
設備投資実施企業割合は14.1で、前期(14.1)と同水準となった。設備投資は、前期22社に対し、22社の実施となった。来期の設備投資は、19社の予定となっている。

□　経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が 41.7%で最も多く、次に「人手不足」27.6%、「利幅縮小」21.2%、「人件費増加」10.9%、「地場産業衰退」9.6%、「諸経費増加」8.3%、「同業者競合」7.7%、「代金回収悪化」・「天候不順」・「大手企業撤退」が1.9%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が 60.3%と最も多く、次に「人材確保」30.8%、「不動産有効活用」1.9%、「教育訓練強化」 1.3%となっている。





□　来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△15.4と、今期比1.9ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D.I.は2.6と、今期比9.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は△7.1と、今期比7.6ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は28.8と、今期比0.7ポイントの下降を見通している。

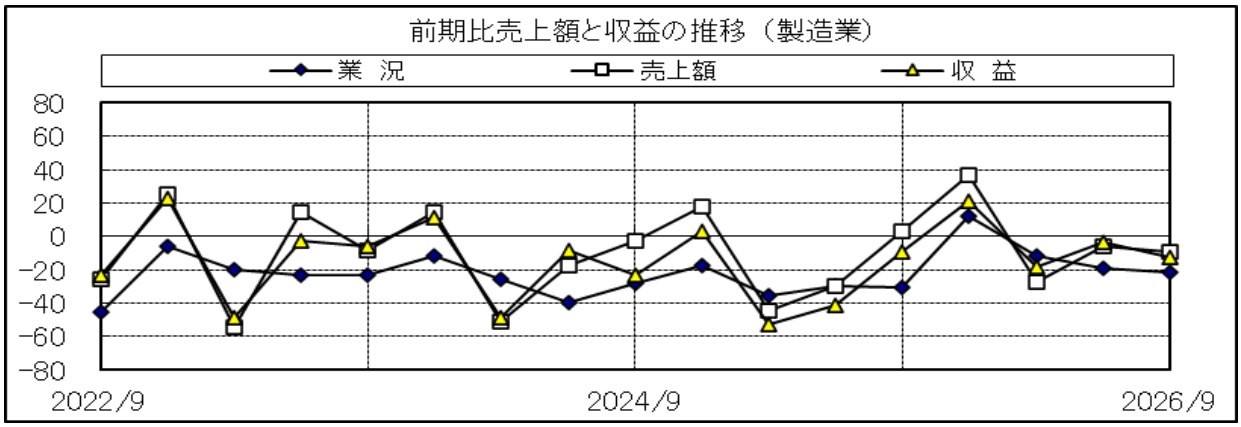
予想仕入価格判断D.I.は49.4と、今期比13.4ポイントの下降を見通している。

製　造　業　32企業（回答率100.0%）の調査結果です

□　景　　況

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
業　況	-12.1	-18.8	-21.9	-18.8
売上額	-27.3	-6.3	-9.4	21.9
収　益	-18.2	-3.1	-12.5	-3.1

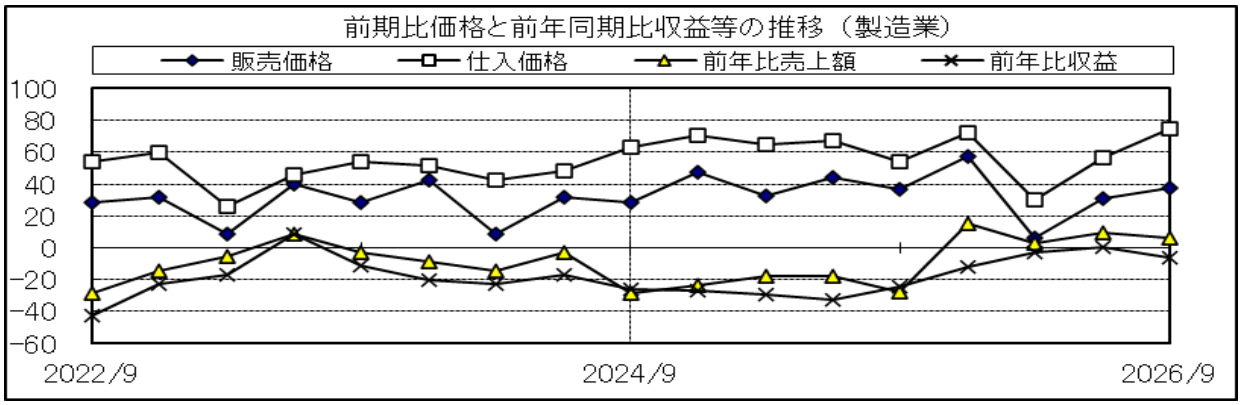
今期の業況判断D.I.は△21.9で、前期比3.1ポイント下降、前年(△30.3)比で8.4ポイント上昇した。地区別のD.I.は高い順に、三石と広尾が同率で最も高く、次にえりも、様似、浦河と続き静内が最も低い水準となった。売上額判断D.I.は△9.4で、前期比3.1ポイント下降。収益判断D.I.は△12.5で、前期比9.4ポイント下降した。



□　価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
販売価格	6.1	31.3	37.5	50.0
仕入価格	30.3	56.3	75.0	53.1

販売価格判断D.I.は37.5で、前期比6.2ポイント上昇、前年(36.4)比では1.1ポイント上昇した。仕入価格判断D.I.は75.0で、前期比18.7ポイント上昇、前年(54.5)比20.5ポイント上昇した。



□　雇用面の動き

DI値の推移	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
残業時間	-9.1	-3.1	-6.3	-3.1
人手状況	-33.3	-15.6	-28.1	-34.4

残業時間判断D.I.は△6.3で、前期比3.2ポイント下降し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D.I.は△28.1で、前期比12.5ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□　設備投資の動き

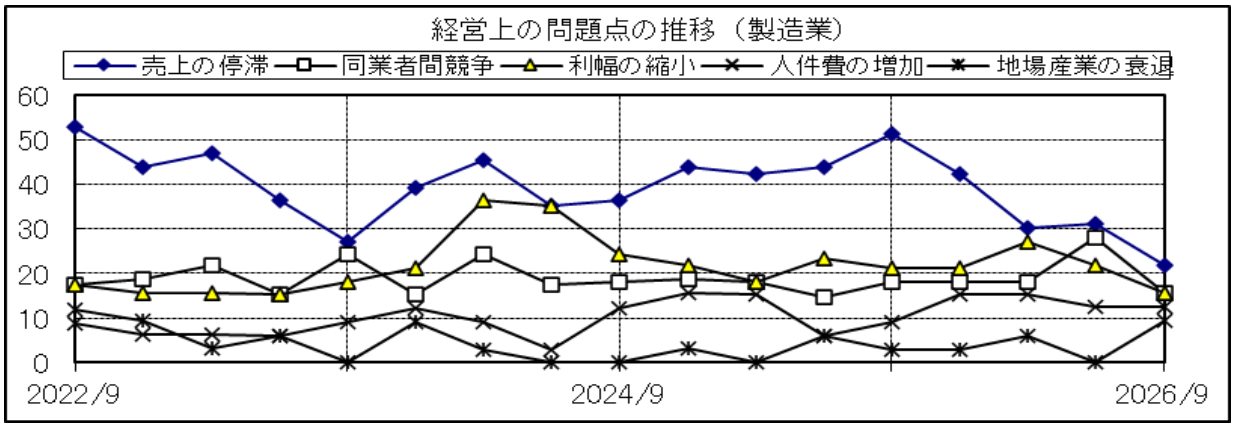
設備投資の充足感を示すD.I.は△21.9で、前期(△21.9)と同水準となった。

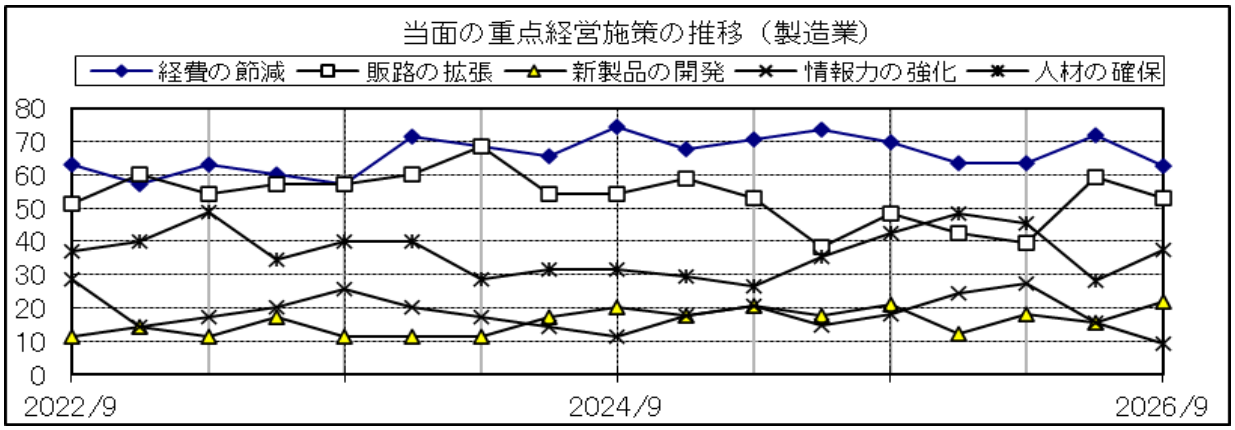
設備投資実施企業割合は18.8で、前期(18.8)と同水準となった。設備投資は、前期6社に対し6社の実施となった。来期の設備投資は、6社の予定となっている。

□　経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が59.4%と最も多く、次に、「人手不足」・「値上要請」が31.3%、「売上停滞減少」21.9%、「工場機械の老朽化」18.8%、「同業者競合」・「利幅縮小」・「生産能力不足」が15.6%、「人件費増加」12.5%、「地場産業衰退」9.4%、「諸経費増加」・「大手企業撤退」が6.3%、「大手企業競合」・「値下要請」・「天候不順」が3.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が62.5%と最も多く、次に「販路拡大」53.1%、「人材確保」37.5%、「新製品開発」21.9%、「情報力強化」9.4%、「不採算部門縮小」・「提携先確保」が6.3%、「機械化促進」・「不動産有効活用」が3.1%となっている。





□　来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△18.8と、今期比3.1ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は21.9と、今期比31.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は△3.1と、今期比9.4ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は50.0と、今期比12.5ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D.I.は53.1と、今期比21.9ポイントの下降を見通している。